

ご来園の皆様の感染症予防のために



京都府立植物園は、5月18日(月曜)より開園しています。

しかしながら、未だ予断を許さない現状もあり、ご来園の皆様に対して感染予防の要請と園内の規制対策を行っていますので、ご理解ご協力いただき「憩いの場」としてご利用ください。

また、各種ガイド案内・講演会・講習会等の植物園主催行事は当面中止させていただきます。

【ご来園前のお願い】

- ◆ご来園前に、検温等を行ってください。
- ◆2週間以内に感染が拡大している国への訪問歴がある方はご入園をお断りします。

【ご入園時のお願い】

- ◆入園門では、サーモグラフィー等にて体温確認させていただきます。
- ◆発熱、咳、咽頭痛などの症状がある方はご入園をお断りします。
- ◆マスクの着用や咳エチケットをお願いします。

【ご入園後のお願い】

- ◆人との距離を確保しましょう。
- ◆手洗い・手指の消毒を行いましょう。
- ◆こまめな水分補給や、人との距離を十分取った上で適宜マスクを外すなど休憩をとり熱中症の予防を心がけましょう。
- ◆人の密集が想定される次のエリア等を一部封鎖しています。
 - ・未来くん広場(遊具、きのこ文庫)
 - ・観覧温室内の昼夜逆転室
- ◆人が密集するエリアのテーブル・イスを撤去しています。

「植物園オンライン・ミニミニミニガイド」

「土曜ミニミニガイド」のオンライン短縮版です。



技術課職員が植物解説!



「おうちでお花見」

「週刊オススメ植物情報」の代替版です。



植物園芸相談 ※当面の間は電話での相談対応となります。

- 毎週日曜日 午前9時～正午、午後1時～午後4時
- 電話075-701-0141で



スマホdeガイド

QRコードをスマホで読み込み、「位置情報を利用する」に設定!

京都府立大学との共同により、スマホを使って園内の自分の位置が確認できる『スマホdeガイド』を作成! ‘おすすめ樹木めぐり’ ‘おすすめエリアガイド’などをスマホで確認し、植物観察!



※年間パスポート好評発売中

- ・1年間、何度でもご利用いただけるお得なチケットです!
大人1000円 高校生750円
- ・入園門でご購入いただけますので是非お買い求めください。
※温室観覧料は別途必要となります。

植物園HP!



⑫ サイコトリア ペピギアナ

アカネ科。中南米原産。開花期に唇のような形をした苞(ほう)が赤く色づき、花粉を運ぶハチドリなどを引きつける。開花すると口紅を塗った唇が小さな花をくわえているように見え、その姿が別名「**ホット・リップス(熱い唇)**」のゆえん。

⑪ タイサンボク

モクレン科。北米原産。アメリカを代表する花木の一つで、米国では50種類以上の園芸品種が作出されている。甘く強い芳香があり、香り成分から香水も作られる。雄しべ雌しべが太く集まっていることが特徴で進化初期の形質を示す。

⑩ パラミツ

クワ科。インドからバングラデシュが原産。雌雄同株。キノコバエの仲間が花粉を運ぶ。果実は長さ70cm、幅40cm、重さ40~50kgに達することもあり、世界最大の果実と言われる。英名では「Jack fruit (ジャックフルーツ)」。

⑨ パッシフロラ

トケイソウ科。属名のパッシフロラはラテン語で「受難の花」を意味し、花の形を十字架にかけられたキリストに見立てて付けられた。また、三分裂した雌しべが時計の針のように見えるため、日本では「**トケイノミ**」と呼ばれることが多い。

① ナツツバキ

ツバキ科。日本から朝鮮半島南部に自生。花期は6~7月初旬で、朝に開花し、夕方には落花する一日花。そのはかなさから、平家物語にも「沙羅双樹(さらそうじゆ)」と記され、登場しているのは、この植物を指すとも言われている。

② タチアオイ

アオイ科。日本には薬用として中国から渡来。名前は茎がまっすぐに立ち上がって伸びていくことに由来。花は梅雨入り頃の下から咲き始めて順々に咲き上がり、梅雨明け頃に咲き終わることから「**ツユアオイ**」の別名でも呼ばれる。

③ ヘメロカリス

ワスレグサ科。アジア東部の暖帯から温帯に自生。花は一日花であることから英名は「Day lily (一日ユリ)」とされる。属名のヘメロカリスもギリシャ語の「一日」と「美」をあわせたもの。花は次々と開花してくるので観賞期間は長い。

④ ガウラ

アカバナ科。北アメリカ原産。和名は淡桃色の花から山桃草(ヤマモモソウ)。花の形や色に由来し、白蝶草(ハクチョウソウ)との別名もある。ガウラはギリシア語の「堂々たる」、「華麗な」を意味するgaurosに由来し、美しい花にちなむ。

⑤ アーティチョーク

キク科。地中海沿岸原産。和名では「**チョウセンアザミ(朝鮮薊)**」と呼ばれる。欧州や米国では若いつぼみを食用としている。元は野生のアザミであったが、古代ギリシャ・ローマ時代以降、品種改良が進んで今日の姿となった。

⑥ ハナイカダ

ハナイカダ科。日本各地と中国に分布。雌雄異株(雌雄の株が異なる)。葉の上に花が咲き、果実が実ることが特徴。葉の上に乗っている花や果実の姿を筏(いかだ)乗りに見立ててその名が付いた。果実は黒く熟す。



写真はコチラ!



京都府立植物園

⑧ カンナ

カンナ科。熱帯アメリカ原産。観賞用のものはハナカンナと呼ばれ、トロピカルな雰囲気の花を夏から秋遅くまで観賞することができる。熱帯が原産のため、冬には地上部は枯れてしまうが、地中にショウガに似た根茎を残す。

⑦ サラノキ ※花は咲いていません

フタバガキ科。インド原産。釈迦がこの木の下で入滅(死亡)したと伝わったことから、仏教三聖木の一つとなった。熱帯性で冬の寒さに弱いため、日本の寺院ではツバキ科のナツツバキが代わりとして植えられた。

